



ひめじこう 姫路港に親しもう

姫路みなと祭海上花火大会

姫路港飾磨地区で開かれ、ほかではなかなか見ることのできないしゃく玉やスターマイン、仕掛け花火が姫路港の夜を彩ります。

しゃく玉……直後30cmくらいの天竺の花火スターマイン……短時間にれんぞくして打ち上げる花火



姫路港ふれあいフェスティバル

いろいろな団体によるステージえんそや、活動てんし、地いきのとくさん品のはんが、海上保安部の船の公開などが行われます。

海水よく・しおひがり

形的海水よく場、白浜海水よく場では、春はしおひがり、夏は海水よくが楽しめます。



公園

水べをさん歩したり、海風けいをはなめたり、海に親しむことができます。



つり

姫路市立遊ぎよセンターでは、海づりが楽しめます。いろいろな魚をつることができます。



発行 姫路港ポートセールス推進協議会
ホームページ <https://himeji-port.com/>
事務局 兵庫県中姫路側岸センター
姫路港管理事務所内
〒672-0063 兵庫県姫路市飾磨区池田204
TEL 079-(235)0176
FAX 079-(234)5172

港の役わり

まわりを海にかこまれた日本では、「港」は世界につながるげんかん口です。日本へは世界のいろいろな国からたくさんの物がやって来ます。わたしたちがいつも食べているお肉や野菜などの食糧、服や電化せい品のなどの生活用品、石油やガスなどのエネルギーといった、さまざまな物をほかの国から持ってきています。そして、世界中からやって来る品物のほとんどが船で運ばれ、「港」に着きます。「港」はわたしたちの暮らしをささえているのです。姫路港には、「港」に運ばれた天ねんガスから電気をつくる火力発電所や、石炭や鉄などを使う工場があり、地いきの工業の中心になっています。



古いれきしをもつ 姫路港

瀬戸内海は、日本海や太平洋にくらべて波がおだやかなため、古くから量ような船の通り道でした。

姫路港は古く「節磨江」とよばれ、その名は「万葉集」という奈良時代の書物にもついています。その当時は瀬戸内海を行き来する船だけでなく、中国へ行く通商使の船も集まりました。その後、平安時代から明治時代までは「節磨津」（津は港という意味）とよばれ、瀬戸内海の大きな港の一つとしてかえりました。江戸時代には、日本海や海道の落から大阪へ米や魚を運ぶ前船がやって来ました。明治のはじめには生野鉱山と飾磨津との間に日本ではじめての高速で物を運ぶための道、馬車せん用道路の「銀の馬車道」ができました。今の姫路港は日本と世界をむすぶ港として、兵庫県の物流のき点になっています。近畿のエネルギーきょう結でも大きな役目があり、日本で18港ある「国際拠点港湾」にも指定されています。また、家島諸島の旅客船や小豆島へのフェリーが発着するほか、クルーズ客船も入港します。



飾磨地区にある港は、江戸時代に大きな船をとめるためにつくられました。荷物の積みおろしをする「積木」とよばれる船だんがのこっています。



小豆島へのフェリー 家島諸島への旅客船 入港したクルーズ客船

かんきょうを守る姫路港

今、地球の温暖化などのかんきょう問題に対して、世界中でさまざまな対応が進められています。姫路港でもかんきょうを守るために、「モーダルシフト」や「カーボンニュートラルポート」など、いろいろな取組を行っています。

モーダルシフト

モーダルシフトとは、か物を運ぶときに使う乗り物を、地球温暖化のもとになるCO₂（二さん化炭素）をたくさん出すトラックから、地球かんきょうにやさしい船や鉄道にかえていくことです。



カーボンニュートラルポート

カーボンニュートラルとは、CO₂を出す量をへらすだけでなく、CO₂をすうはたらきがある森林を増やしたりすることで、空気中のCO₂をふやさないようにすることです。そのために、姫路港を中心とする地いきでは、次のようなことをしようと考えています。

- 1 CO₂を出さないように港のしせつなどを新しくしたり直したりすること
- 2 港の近くの会社とともに協力して、CO₂を出さないようにすること
- 3 燃やしてもCO₂が出にくいクリーンエネルギーである水そ・アンモニアなどを受け入れたりためたりできるようにすること



はたらき者の姫路港

人や荷物をおろすため、船をつなぐ「岸べき」

港に入ってきた船をつなぐところ。つないだ船から、人が乗りおりたり、荷物をつないだりしたりします。姫路港は大きな船がたえず来るので、岸べきのそばの海はかなり深くなっています。

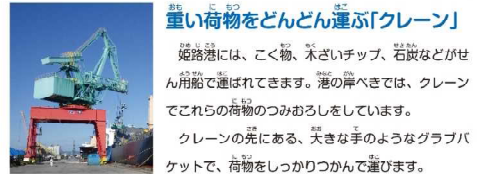


大きな波から、人や船を守る「ぼう波てい」

安全に船から乗りおりたり、荷物をおろすため、海からやってくる大きな波を止めて人や船を守ります。

船を安全に港へみちびく「とう台」

港の出入口にある海のひょうしきです。とくに夜の海は真っ暗なので、光のしん号を出して船に港のいちを知らせるとう台は、船乗りにとって大事な目印です。

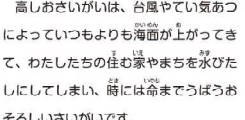


重い荷物をどんだん運ぶ「クレーン」

姫路港には、こく物、木ざいチップ、石炭などがせん用船で運ばれてきます。港の岸べきでは、クレーンでこれらの荷物の積みおろしをしています。クレーンの先にある、大きな手のようなグラブバケットで、荷物をしっかりとつかんで運びます。

わたしたちのくらしを守る 姫路港

日本は、台風や地しんのひ害を受けることが多く、海に近い地いきでは、高しおやつ波のきけんにさらされています。港には、これらのさいがいからわたしたちのくらしを守るためのしせつがあります。



高しおさいがいは、台風やてい災あつによっていつもよりも海面が上がってき、わたしたちの住む家やまちを水びたしにしまい、時には命までうばうおそろしいさいがいです。



こうした高しおさいがいに對して、海岸にはぼうちようていを、川には水門をつくって、水が来ないようにしています。姫路港の一部の岸べきは、地しんがあきて道路が通れなくなった時でも、ひなんする人々や、食りようなどを船で運ぶことができるように、地しんでもこわれないたいしん強化岸べきにしています。

